

## 第3回稲沢市公共施設のあり方検討委員会 会議録

【日 時】平成24年4月27日（金） 午後2時30分～4時40分

【場 所】稲沢市役所議員総会室

【出席者】稲沢市公共施設のあり方検討委員会委員（敬称略）

谷口 元	名古屋大学総長補佐・全学施設計画推進室長・大学院工学研究科教授
古川行光	元愛知県教育委員会事務局管理部長
栗林芳彦	名古屋文理大学情報文化学部PR学科長・教授
萩原聡央	名古屋経済大学法学部准教授
吉田哲夫	元稲沢市教育委員会教育部長
三枝知美	公募
中西 弘	公募

〈事務局〉

大木和也	副市長
真野宏男	市長公室長
篠田智徳	企画政策課長
宮島崇志	企画政策課統括主幹
浅野隆夫	企画政策課主幹
吉川修司	企画政策課主査
大屋 将	企画政策課主任

### 【議事次第】

- 1 副市長あいさつ
- 2 議事
  - (1) 公共施設の改革案について
  - (2) 稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査の結果について
  - (3) 今後の予定について
- 3 市長公室長あいさつ

## 【会議の概要】

### 1 副市長あいさつ

本日は公私とも大変お忙しい中、第3回稲沢市公共施設のあり方検討委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

公共施設のあり方検討委員会につきましては、昨年度二回開催いたしました。その際には、市の財政状況、施設の現状と課題、そして、改革の目玉施策について、活発なご議論をいただいたところでございます。誠にありがとうございました。

また、今月4日、6日に二班に分かれて市の公共施設の現状をご視察いただきました。施設を実際にご覧いただきましたことを今後の検討に活かしていただければありがたいと存じます。

いよいよ今回から具体的な施設についてご検討いただくこととなります。検討にあたっては、市の目指すべき将来像や市民の要望を実現するための施策展開に見合う形で、施設を再編成していく必要がございます。

そのためには、市民のニーズをつかむことはもちろん、稲沢市ならではの特色をどのように出していくかが大切とのご提言を前回の委員会でいただいております。

そのご提言を踏まえた上で、私ども職員もしっかりと検討を行い、今回は具体的な施設のあり方についての資料を提示いたします。それらの提案に対してご意見いただくなど、皆様の格別のお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。

今年度も数回の委員会を開催する予定でございます。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。私のあいさつといたします。本日はよろしく願いいたします。

### 2 議事

#### (1) 公共施設の改革案について

[委員長]

4月の始めに稲沢市内の施設を丸一日かけて視察しました。施設によって質の格差が相当大きいと感じました。老朽狭隘もそうですが、合併による地域間の格差も確認でき、最適な改革案を提示することは容易ではないと感じました。本年末まで委員会を重ねる中で、十分な討議をしていきたいと思っております。一層身を引き締めて臨みたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日の議事に入ります。まず始めに、本日の議事の(1)「公共施設の改革案について」、事務局から説明をお願いします。

＝事務局＝

公共施設の改革案についてパワーポイントを用いて説明【資料1】

## ○質疑

[委員]

「まちづくりの理念」や「改革のコンセプト」は、まちづくりのプラス面のイメージが強く表れています。その中で生まれた「改革の目玉」施策についても、例えば「小中一貫教育の導入」によって稲沢市を活性化させるといった期待を感じさせ、資料の前半には改革のプラス面のイメージが色濃く出ています。

ところが、後半の中学校区別の児童生徒数の将来推計の部分は、減少傾向である以上、仕方のないことですが、すべてマイナスのイメージです。その事実は避けられないという説明を聴き、非常にネガティブな印象を持ちました。

また、「まちづくりの理念」、「改革のコンセプト」、「改革の目玉」の関連が希薄であるように感じました。「まちづくりの理念」と、その理念に基づく「改革のコンセプト」がどういう横糸でつながり、それに続く「改革の目玉」にどうつながっていくのかという流れを作ってから、各施設の検討に入った方が良いのではないかと思いました。改革をプラスに転じるために、全体としてどのように進めるのかというアイデアを十分に検討する必要があります。

世間では今、特に私立を中心に一貫教育が話題になっています。子どもを一貫校に入学させるために移住するという話も聞きます。そうした一貫教育の導入が、この地の教育行政にとってどのようなプラス面やインパクトがあるかを論じてから、施設の統合の話に移るといったシナリオが必要であると感じました。その他の「改革の目玉」も同様です。

また、改革を実現するために、最終目標まで段階ごとにどのレベルまで達成していくかといった工程計画を、10年先くらいまで持つ必要があると思います。

[事務局]

資料全体の流れとして、最初がプラス面で徐々にマイナス面ばかりになって、最終的にネガティブな印象になるというのは、意識して作った面もあります。プラス面だけを語ることもできますが、現状のままではいけないという危機感は市としても持っており、委員会の場を通して市民の皆様にもそのことを認識していただき、「現状のままではこうなってしまう。ではどうしたらいいか。」という議論を始めるきっかけになればと思い、あえてマイナス面もいくつか提示しました。当然、プラスになるような流れを作っていかなければいけませんし、ここまでマイナスにな

らない努力もしていかなければならないと思います。

また、理念に関しては、先が見えない中で理念だけ語り続けて現実と乖離してもいけませんので、さらに議論を深掘りし、各論も交えながら、最終的な報告書の段階ではきちんとした横糸でつながるようにしたいと思っています。本日は、大きな宿題をいただいたと受け止めます。

工程計画の必要性については、事務局としても考えておりました。ただし、個々の施設に関して、どういう形で建替えや再編を行うかを決めないと、いつ頃までに何を行うかという具体的な工程計画は作れません。その方向性を決める場が、この委員会だと考えております。委員会の中で様々なご提言をいただき、最終的な報告書という形で市長に提出していただいた暁には、時間を置かずに公共施設再編の工程計画を作り、委員の皆様にも市民の皆様にもご覧いただきご意見をいただきたいと思っております。

[委員]

そのような方針があるということであれば結構です。この委員会の使命としては工程計画を作るところまでは求められていないと思いますので、我々の意見を受け止めていただいた上で、行政側で作成していただきたいと思っております。

[委員]

委員の指摘と関連する話ですが、大前提である「まちづくりの理念」を踏まえた上でどのような改革をしていくのかという話ですので、ここで示していただいている改革のコンセプトの考え方は妥当だと思います。

ただ、これを実施計画に落とし込んでいく時に、もう一つ考え方のよりどころとなるものを作っておく必要があると思います。財政的に縮小していく中で、全体を同じ割合でスケールダウンしていくのか、それとも特定分野は支出面でのレベルを落とさないのか、つまりどの分野を重視していくのかという優先順位を考える必要があると思います。

税収や人口が減っていくとなると、すべての分野が均等にしぼんでいく印象を持ってしまうので、そうではないことを示すためにも、これから先の稲沢市の発展を考え、どの分野に力を入れて投資するのをはっきりさせていくことが必要だと思います。

私見ですが、例えば教育や子育てについては、未来に対する投資であるというところから考え、重視すべきだと思います。小中一貫校は経費削減の意味合いもあると思いますが、その方がより良い教育環境を提供できて高い教育効果が望めるのな

ら、それを踏まえた上で、教育に対する投資については、ある程度のレベルを維持していくべきだと思います。

そうした考え方をしていくと、全体の見直しをする際に市が向かう方向が見えてくるのではないのでしょうか。支所のあり方など具体的な議論に踏み込む前に、どのような方向性で財政的なメリハリを付けるかという話があっても良いと感じました。

#### [委員]

委員のご指摘としては、「見直しの視点」の記述が比較的抽象的なので、この部分もう少し具体的にできれば、「改革の目玉」へのつながりがより明確になるのではないかということだと思います。「オリンピック選手との交流」など、施設のあり方とどう関係付けられるのか分かりづらいところがありますので、資料の論理の補強を行っていただきたいと思います。

#### [事務局]

ありがとうございます。回を重ねていく中で修正をしていきたいと思っていますので、ご提言やアドバイスをさらにいただきたいと思います。見直していく方向性として、教育や子育てなど将来に向かっての投資を重視すべきというご提言をいただきました。事務局としてもそうした考えはありますが、もう少し皆様方のご意見をいただき、一定の方向性について議論を深めていきたいと思っています。

#### [委員]

「改革のコンセプト」や「見直しの視点」の考え方については共感できます。「見直しの視点」の1番目、「将来の人口減少を見据えて考える」は避けて通れないことですし、2番目の「税財源が縮小していくことを前提に施設の総量を減らしていく方向で検討する」は方向性としてはそれしかないと思います。3番目の「市民の生活に必要な不可欠なサービスに対しては全体の水準を維持するように配慮する」についても、先ほどの分野を重視するかという話がありましたが、そのとおりだと思います。

教育や子育てに重点を置くべきという意見がある一方で、児童生徒数の将来推計は減少傾向というネガティブな結果です。しかし、委員会としては現実として認識する必要があります。そう思いますと、限られた条件の中で、公共施設に関するより良いハードやサービスを考えていくには、地域特性を考慮することが重要だと思います。例えば、提案されました「市民ふれあい農園」は、定年退職された高齢者

に対して、無為に過ごすのではなく、自然とふれあって収穫する喜びを行政が提供することだと思います。これは、名古屋に近い割に緑が豊かで農業が盛んという地域特性をきちんと具現化している例だと感じます。

「福祉とボランティアの拠点」という提案も、前回の私の意見を具現化していただいてうれしいということもありますが、福祉施設の利用者は社会的弱者が多いので、そうしたかたに対してワンストップサービスを提供していくことは、行政の目指す方向としては良いと思います。どこへ行ってどういう話をしているか分からずたらい回しにされるという事態を避けるためにも、一か所に集約するのは方向性としては正しいと思います。理念、概念も大事ですが、現実を見据えた上で考えていくということではないかと思います。

また、私自身東海三県を仕事のエリアとしていますが、事務所が稲沢市にあると言っても他県のほとんどのかたは稲沢市のことを知りません。「オリンピック選手との交流」という提案と施設のあり方との結びつきが分かりづらいのですが、単純な話、オリンピック選手が稲沢から出るというのはいい話だと思いますので、知名度を上げる意味でも利用できるものは利用すべきだと思います。

小中一貫教育の理念については、教育の専門家ではないのでよく分かりませんが、現実問題として児童生徒が減るのであれば、あくまでも施設に限定した話ではありますが、再編していくという考え方で検討する必要がある、その部分でコンセプトはつながっていくと思います。

#### [委員]

福祉に関しては、小規模多機能の老人福祉施設が全国的に普及してきました。従来のように収容施設や通所施設、事務所をバラバラに造るのではなくて、小規模でもそこに行けば何とかできるという考え方です。

数年前から「この指とまれ運動」と言って、困っている人も支援したい人も名乗りを上げて一つの拠点で活動する民間団体の運動があるのですが、それを行政が受け止めて、「小規模多機能」をキーワードに拠点となる施設が増えています。中学校区くらいのエリアで、お年寄りや介護する家族に関するいろいろなこと、例えばショートステイ、リハビリ通所、在宅給食サービス、ホームヘルパーの拠点などの施設を、小規模で複合化するところが増えています。

施設に関する施策を中学校区のエリアで考えるならば、教育も中学校区を基本単位でということですので、複合化が可能ではないかと思います。小学校区だと人口減少により町内会自体も成り立ちにくい状態になってきていますので、そういう意味では少し単位を拡げて施設を再構成してみるの方向性としてはあり得ること

だと思います。施設のあり方を考える上で、中学校区を基本単位とするというコンセプトを聞いたときに、私もいい考えだと思いました。

教育や福祉といった枠で考えすぎてしまうと、また箱物を別々に造ることになりますので、施設の再配置を考えるときにはむしろその枠を外し、中学校区で一まとまりの場所として考えることが重要になると思います。

[委員]

今回の資料を拝見して、「公共施設のあり方検討委員会」という名称に似つかわしく、内容が具体的になってきたというのが第一印象です。今回からは、支所や市民センター、保育園、小学校などを具体的にどうするかという議論になっていくと思うのですが、私はその議論の一番の根底はこのアンケート結果ではないかと思えます。

施設を今後どうしていくかは市側の意向も当然あると思うのですが、市民の考えを伺うために聞いたこのアンケートで、市民のかたは「安心・安全」というキーワードを強く意識されています。それが議論の最初の着地点だとすると、施設の耐震化の状況が気になりました。最近テレビでは、次はどこで大地震が起きるかなど、常に地震の話題で持ち切りです。耐震補強をしていない施設ということ踏まえると、今回の支所に関する提案についてはやむを得ないと思いました。

また、第1回委員会で、施設のあり方を見直すことは市民にとってデメリットの印象の方が大きいので、メリットについて尋ねました。前回で大きな話題となった小中一貫教育は、私自身も2、3週間前にテレビで笹島に市立の小中一貫校があることを知り、ちょうど調べ始めたところでしたので、「そういうものを造るのか。すごい。」と思いました。国内初という訳ではありませんが、まだ数少ない試みですので、それを目玉施策として実際に導入することができたら、市民のかたも興味がわくのではないかと思いました。

[委員]

そうした小中一貫校が実際にあれば、近くに住みたいと思いますよね。

[委員]

そうですね。住むということ言えば、友人がマンションを買うにあたり名古屋市か稲沢市かで迷っていて、1千万円近く値段が違ったのですが、結局名古屋市に決めたそうです。理由は、名古屋市は中学3年生まで医療費が無料であり、子どもが3人いることを考えて計算した結果とのことでしたが、それだけではないと思

ます。

稲沢市も今年から小学6年生まで医療費が無料になったばかりですし、名古屋市から近くて実際に住んでみるといい所なのに、「では稲沢市には何があるのか。」と聞かれたときに、どれも中途半端な感じで特に大きなトピックスがないこと、稲沢市としてのいわゆる「売り」がないことが、住む場所を選択する際に不利な要因になっていると思います。

その意味では、例えば改革の目玉の「小中一貫教育の導入」や「オリンピック選手との交流」はマスコミの題材になりやすくPR効果がある大きなトピックスだと思いますし、施設を見直す際のマイナスイメージもポジティブにとらえられて、実際の再編もスムーズに進むのではないかという印象を持ちました。また、それによって何億円もの財源が節約できるのであればすごくいいことだと思いました。事務局からの提案については概ね共感できます。

[委員]

小中学校は義務教育なのでとりわけ関心が高く、再編するとなると、非常に大きな波紋が生じますので、慎重に事を進めていただく必要があると思います。

教育は市単独では行えず、教職員については県教育委員会の助けがないとできない問題です。この問題についても笹島や飛島の小中一貫校の先例を精査して進めていただきたいと思います。

また、旧稲沢市域・祖父江地区・平和地区ではそれぞれ地域的な特性に差があり、小中学校の通学距離もかなり違うと思います。学校を再編するとなると、保護者の皆様方にもご負担が必要になることもあろうかと思いますが、そうした問題も提示しながら進めていただきたいと思います。

[委員]

市民にどのくらい危機意識を共有してもらえるかが、この改革を進めるにあたって重要な前提になると思います。市民との危機意識の共有がなければ、いくら市が「改革、改革」と言ってもなかなか賛同してもらえないと思いますので、その意味では資料の中でネガティブなことを指摘する部分があっても良いと思います。

「見直しの視点」の2番目の「税財源が縮小していくことを前提に施設の総量を減らしていく方向で検討する」と、3番目の「市民の生活に必要な不可欠なサービスに対しては全体の水準を維持するように配慮する」は、それぞれ施設のハード面とソフト面のことだと思います。「改革の目玉」のうち、どれがハード的な改革で、どの部分がソフト的な改革にあたるのか、説明していただければ分かりやすいと思



いました。

「見直しの視点」の3番目の考え方は私も重要だと思っていて、先ほど委員がおっしゃった「どこに重点を置くか」がポイントだと思います。「市民の生活に必要な不可欠なサービス」というときに何をもち必要不可欠なサービスととらえるか、その内容を提示することが重要だと思います。それが今後どうなっていくのか、その考え次第では、「見直しの視点」の3番目の内容も道はいくつか分かれるような気がします。今後、その点についても提示していただきたいと思います。

「改革の目玉」の「市民ふれあい農園」に関する提案ですが、それがどう公共施設と関係するのかと思っていたところ、公共施設の近接の農園を利用するとの説明でした。これは高齢者福祉のソフト面の改革ということになるのでしょうか。面白い試みだと思いますが、市民ふれあい農園や回想法については、高齢者の方々に利用していただいた結果、寝たきりや認知症をどれだけ予防できるか、また、稲沢市は高齢者の医療費をどれだけ負担しているかなど、そうしたデータを提示していただくと言得力が増すのではないかと思います。

先ほど稲沢市は住みよいところだという意見がありました。自然も多くて確かにそうだと思います。ただ、アンケートの意見を読んで気付いたのですが、交通網が整備されていないように感じました。私は稲沢市に住んでいないので分かりませんが、各公共施設を回る巡回バスはないのでしょうか。前回の委員会でも意見がありましたが、公共施設のあり方を検討するにあたり、公共交通網の整備を検討することも大切だという気がしました。

[委員]

稲沢市の公共交通網の整備について、現状を教えてください。

[事務局]

公共交通については、現在、ジャンボタクシーを大きくした9人乗りと14人乗りのコミュニティバスを運行しています。もともとバスを導入したきっかけは、市町村合併でした。地域間の交流のため、そして交通弱者のかたに公共施設を利用しただけのためという目的で運行しています。ただし、日曜日は終日運休しており、月曜日から土曜日でも1～2時間に1本という本数のため、利用するには不便だという意見もいただいております。また、祖父江地区から旧稲沢市域、平和地区から旧稲沢市域、大里地区循環という3つのコースでバスを運行していますが、現在のところ市内全域を網羅できていません。今後、新市民病院の開院も見据えながら経路全体の見直しも考えていきたいと思っています。

[事務局]

先ほど回想法についてデータがあれば提示してほしいとのご意見がありました。回想法に参加した前と後でどのくらい脳が活性化されたか、医療費の削減にどのくらいつながったかについては、回想法を先駆的に始めた北名古屋市がデータを持っていますので、そうしたデータをいただいて委員会の場で紹介できればと考えております。

[委員]

回想法以外にも、高齢者を中心とした様々な健康増進策に取り組んでいる自治体がありますので、いいアイデアはどんどん取り入れていただきたいと思います。

## **(2) 稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査の結果について**

[委員長]

続いて、議事の(2)「稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査の結果について」、市民意識調査の報告書が完成したとのことですので、事務局から説明をお願いします。

=事務局=

稲沢市のこれからの公共施設のあり方に関する市民意識調査の結果について説明【資料2】

### **○質疑**

[委員]

貴重な調査結果ですが、これを市民の声としてくみ上げて実際の施策に反映させる仕組みが重要だと思います。前回の委員会では、単純集計による概要版を見ながら意見交換をしましたが、今回は、年齢別や地区別など属性ごとのデータを含めた調査結果が提示されています。今後の委員会の中でも市民の生の声として使っていきたいと思います。委員の皆さんも時々目を通していただきたいと思います。

[委員]

様々な施設の利用実態や意向について調べた点では大変貴重なデータであり、我々の今後の議論のベースになろうかと思えます。しかし、一つ気を付けなくてはならないのは、原因と結果が逆になっている場合があるのではないかとことです。

例えば、公共施設への交通手段の調査では7割以上のかたが「自家用車」と回答していますが、これは本来であれば公共交通機関で行きたいけれどもその手段がないため、結果としてこうなっているのだというとのらえ方をすべきではないかと思えます。現状は皆が車を利用しているから公共交通機関を充実させる必要がないというとのらえ方をするのはまずいと思えます。

あと、市民サービス窓口の場所についても、「現状の配置でよい」という回答が多数ですが、複数の施設について包括的に聞いており、「現在利用している施設がこの場所にあったらどうですか」と具体例を出して聞いているわけではないので、比較できずにそのように回答しただけかもしれません。調査結果の数字をもって、多くのかたが現状の場所で満足されていると解釈するのは、若干危険ではないかと思えます。

もちろん調査結果の解釈が実際にそのとおりのということもあるかもしれませんが、適切な解釈かどうかについては時折検証した方がよいと思えます。

#### [委員]

一般的に公共施設は、様々な事情で、本当に最適な土地に造れないケースが多々あります。市民のニーズに本当に合っているかという点、場所の選定段階から必ずしもそうではない場合があります。土地や施設が余り気味である今こそ、少しでも市民のニーズに適合する形での再配置を考えるチャンスかもしれません。

#### [事務局]

確かに委員のおっしゃるように、調査結果を一面的に見てはいけなさと改めて感じました。ただ、貴重なデータであることは間違いありませんので、可能な限り委員会の中で活かしていきたいと思っております。

#### [委員]

資料には休日の窓口開設の要望についてのアンケート結果が載っていますが、少子高齢化の中、税収を増やすためにも、働いている若い世代の方々が稲沢市に多く住んでいただくようになることが理想だと思います。子どもを産むと、手続きや子どもの健診で平日に市役所等に行く機会が多くなりますが、母親が2～3か月の産休で仕事に復帰した場合、その度に有給休暇を取らなくてはならないでしょうし、そうでなくても子どもが病気になったときには休みを取らなくてはならないことを考えると、安心して働くことができません。役所の窓口は平日が基本ですが、共働きでも子どもを育てやすい市になってほしいと思っておりますので、子育て支援の観点

からも、ぜひ休日の窓口開設を進めていただきたいと思います。

[委員]

アンケートでは 36.8%のかたが休日の窓口開設を要望しているとの結果ですが、年代別や職業別で見ると、若い世代や働いているかたは、平日の開庁時間以外の時間帯をより強く望んでいる状況が分かります。

[事務局]

先ほどの子ども医療費の問題に加え、人口や税財源が縮小していく中で今後いかに市を活性化させていくかということについて、貴重なご意見をいただいたと受け止めております。すぐにという訳にはいかないかもしれませんが、休日及び夜間の窓口開設については、現在、庁内で前向きに検討しております。

[委員]

複雑な書類の手続きは難しいと思いますが、簡単な証明書程度ならネットでできるようにしていただくと良いと思います。

[事務局]

お手間かもしれませんが、日中に電話で事前予約していただきますと、休日や夜間に証明書等を受け取ることができる制度があります。しかし、まだまだ利用が少ないのが現状です。

[委員]

委員の意見は、ICT化がもっと進むと、ネット上でのサービスがどんどんできる時代になるのではないかということですね。

[委員]

個人情報の問題はありますが、もう既にそういう時代ではないかと思います。

[委員]

おそらくその普及は一気に進むと思います。コンビニなどを利用した取り組みも同様だと思います。

[委員]

先ほどの公共施設への交通手段の話ですが、現実的に考えられる方法はコミュニティバスだと思います。今後、個々の公共施設の再編や統合を検討して、ある程度見直しの姿が見えてきた過程で、コミュニティバスの経路や本数について検討し直す考えを市として持っているのでしょうか。

[事務局]

今お手元にコミュニティバスの時刻表と路線図を配付いたしました。コミュニティバスには大きく分けて祖父江下津線、大里循環線、平和千代田線という3つの路線があります。名鉄バスの路線もあり、国府宮駅と矢合観音をつないでいます。名鉄バスの最終停留所は愛知県植木センターとなっていますが、これは朝晩に一本ずつしか走っておりません。特に利用が多いのが、祖父江下津線と大里循環線における国府宮駅からヨシヅヤ新稲沢店やアピタ稲沢店までの路線です。その次に多いのが尾西病院までの路線であり、残念ながら平和千代田線の利用は低調です。

コミュニティバスの運行に関しては、地域公共交通会議を毎年2～3回開催し、そこで検討しております。会議の中で多くいただいている意見は、市中央部及び北部における路線の充実です。日曜運行の要望もいただいておりますが、公共施設や病院が休みである土曜日の利用が低調である現状から、今のところ運行を見合わせている状況です。

また、祖父江地区はバスに接続するコミュニティタクシーがあり、12箇所の乗り場があります。ただし、事前予約制度ということもあって、低調な利用となっているのが現状です。

ご提言いただきました路線の見直しにつきましては、地域公共交通会議で検討してまいります。先ほど申し上げましたように、新市民病院が近い将来開院します。また、下津地区へ行くにはJR稲沢駅南側の跨線橋を通過しておりますが、北側にも跨線橋が先月開通しましたので、そこを通る路線についても今後検討していきたいと考えております。

[委員]

コミュニティバスについては別の組織で検討しているということで了解しました。

### (3) 今後の予定について

[委員長]

次に、議事の(3)「今後の予定について」、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

次回委員会の日程についてお知らせいたします。次回、第4回委員会は7月4日(水)午後2時から、場所は同じく議員総会室で開催を予定しておりますので、委員の皆様におかれましては、ご予定の方よろしくお願ひいたします。

また、本日お手元に配付しております今後の開催予定ですが、現時点での予定ですので、回数や日時については変更することもございます。その節はご理解賜りますようお願いいたします。

[委員長]

今後の予定について了解しました。他にご意見よろしいでしょうか。なければ本日の議題はすべて終了いたしましたので、これで会議を終了したいと思います。その他、事務局から何かあればお願いします。

[事務局]

ありがとうございました。午後4時30分までということでしたが、若干遅くなって申し訳ございません。本日委員の皆様方からいただきましたご意見を踏まえ、今後さらに検討してまいりたいと存じます。

それでは最後に、市長公室長からごあいさつ申し上げます。

### 3 市長公室長あいさつ

本日も長時間にわたり、活発なご議論を頂戴いたしまして誠にありがとうございました。本日頂戴いたしましたご意見につきましては、事務局で整理し、次回以降に反映させていきたいと思ひます。今後とも忌憚のないご意見を頂戴いたしますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

現在、愛知県は交通事故死ワースト1ということで、警報が発令中でございます。ぜひともお気をつけてお帰りいただきますようお願いいたします。本日は長時間ありがとうございました。